

# ラッカセイ\*1

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	汚	褐	莖	黒	白	さ	そ	菌	灰	ア	コ	ハ
					斑	斑	腐	渋	絹	び	核	色	ブ	ガ	ダ	
					病	病	病	病	病	病	病	病	病	類	類	類
硫黄粉剤50	M2		-	-	◎		◎									
硫黄粉剤80	M2		-	-	◎		◎									
トップジンM水㊟	1		7	4	◎	◎	◎				◎		◎			
トップジンM粉DL㊟	1		7	4	◎											
ベンレート水㊟	1		7	4	◎	◎	◎				◎					
アフェットFL	7		1	3	◎			◎	◎		◎	◎				
フロンスайд粉	29		45	1				◎								
スミレックス水	2		21	4	◎								◎			
ロブラール水	2		21	3									◎			
ジマンダイセン水	M3		14	3		◎					◎					
ダコニール1000FL	M5		14	4		◎										
オンコル粒5	1A		*b	1												幼
ダイアジノンS Lゾル	1B		*a	1												幼
アグロスリン乳	3A	劇	1	3										◎		
フォース粒	3A	劇	*b	1												幼
粘着くん液	-		1	-												◎

㊟:チオファネートメチル含有剤 ◎:ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作  
での◎は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

\*1:ラッカセイ…なんぎんまめ、ピーナツを含む

\*a:播種前 \*b:播種時

幼:幼虫

ラ  
ッ  
カ  
セ  
イ

# ラッカセイ

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
褐斑病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000(FL) 500倍 トップジンM水和剤⑦ 1500～2000倍 ベンレート水和剤⑧ 2000～3000倍	⑦:チオファネートメチル含有剤 ⑧:ベニミル含有剤 ⑦を使用した場合には同じ作での⑧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く)。
黒渋病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から定期的に次の薬剤のいずれかを散布する。 硫黄粉剤80 3kg/10 a トップジンM水和剤⑦ 1500～2000倍	
そうか病	生育期	1. 発病畑には連作しない。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 トップジンM水和剤⑦ 1500倍 ベンレート水和剤⑧ 2000倍	本病による減収は激しいので、初期の防除を徹底する。
アブラムシ類	発生期	・ 次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤* 1000～2000倍 アグロスリン乳剤 2000倍	* 豆類(種実)での登録
ハスモンヨトウ	発生期	・ 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤* 1000倍	* 豆類(種実)での登録
コガネムシ類幼虫	播種時	・ 次の薬剤のいずれかを全面土壌混和してから播種する。 オンコル粒剤5 9kg/10 a ダイアジノンS Lゾル 50倍(100L/10 a) フォース粒剤△ 9kg/10 a	△播溝土壌混和又は全面土壌混和
ヒョウタンゾウムシ類	発生期	1. イネ科作物を輪作する。 2. 成虫を捕殺する。	サビイロヒョウタンゾウムシ、トビイロヒョウタンゾウムシなど。
ハダニ類	発生初期	・ 発生が認められたら高密度になる前に次の薬剤を5～7日おきに連続散布する。 粘着くん液剤△ 100倍(150～300L/10 a)	△本剤は残効性がない。
センチウ類	作付前	・ 土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。	

ラ  
ッ  
カ  
セ  
イ